

造形的な見方・考え方について

造形的な見方・考え方について

造形的な見方・考え方は、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、以下のように示されています。今回の改訂では、造形的な視点を豊かにもって対象や事象を捉え、創造的に考えを巡らせる資質・能力の育成が重視されています。

造形的な見方・考え方

表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。

文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編」（下線は本研究による）

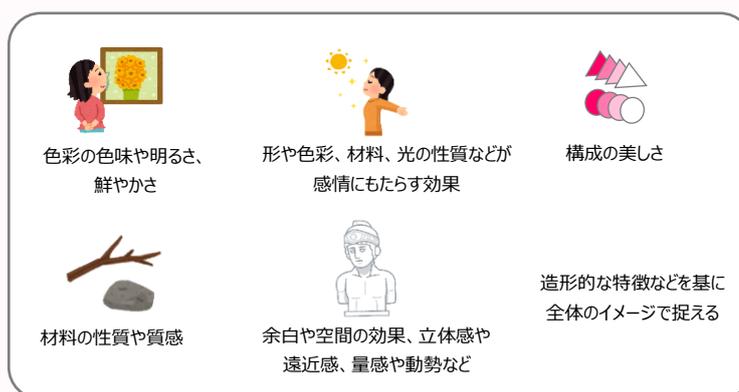
造形的な視点について

造形的な見方・考え方を働かせるためには、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、造形的な視点を基に、どのような考え方で思考するのかということ、一人一人の生徒にしっかりとめさせるようにすることが重要になります。この造形的な見方・考え方に示されている、対象や事象を捉えるための造形的な視点は、次のように説明されています

造形的な視点

造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである。

文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編」（下線は本研究による）



文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編」を基に作成

以上のような視点で対象を見つめ、表現や鑑賞の活動を行いながら、生徒が自分としての意味や価値をつくりだすようにすることが、造形的な見方・考え方を働かせることであり、このことが中学校美術科における学びの深まりにつながると言えます。